

世界遺産の町を 柔らかな光包む

平泉・お盆3行事

平泉町で16日夜、送り盆に合わせ「平泉浄土のあかり」と「平泉大文字送り火」、「法灯会」の3行事が行われた。世界遺産の町は、先祖や戦没者、東日本大震災犠牲者らの冥福を祈る柔らかな光に包まれた。

浄土のあかりは、世



夢灯りの柔らかな光に見入る子どもたち

界遺産・観自在王院跡や町中心部の道路沿いに夢灯り約3千個をともした。夢灯りは、主催した平泉まちてらす会（小野寺郁夫会長）の会員や町民有志らが

手作り。小野寺会長は「平和を希求する平泉だからこそ、これからも送り盆は静かに温かく祈る日にしていきたい」と心を込めた。大文字送り火は、中

尊寺の「不滅の法灯」から分火した火を中高生ら4人がリレーでつなぎ、束稲山駒形峰の火床へ。午後8時すぎ

に夜空に「大」の字が浮かび上がると、見守った町民らから感嘆の声が漏れた。毛越寺浄土庭園の法

灯会は、町民らの供養の思いや願いなどが記された灯籠800個以上を、大泉が池に浮かべた。